

Rocky Auto STUDIO GRAND OPENING!!

ロッキーオート・スタジオ TEL 0564-66-5488 <http://www.rockyauto.co.jp/>



①ロッキーオート代表の渡辺嘉也さん(左)と、レジェンドドライバーの桑島正美さん。渡辺さんと桑島さんは、旧知の仲で、桑島さんは、グランドオープニングに合わせて広島から駆けつけた。②2階に設けられたVIPルーム。ゆったりとくつろぎながら話ができるスペース。③VIPルームには桑島さんゆかりのポスターや写真が飾られている。④桑島さんが獲得したトロフィーや盾などもVIPルームに飾られている。⑤1Fの応接スペースも広く、4組のお客さまが同時に来店しても対応できる商談スペースが用意されている。



⑥500坪に及び敷地に、400坪の建屋を構えるロッキーオート・スタジオ。来店車両の駐車スペースやエントランスにも大型の庇が設けてあるので、たとえドシャ降りの雨でも濡れずにお店の中まで入ることができる。これもお客さまの利便性を考えての設計。⑦Z33のVQ35型エンジンを搭載したS30Z。手前の水色のZは完成車。奥のZ33はドナー車だ。⑧店内の作業スペースでは、VQ35型を搭載するS30Zを製作中だった。車体のレストア作業と同時に補強が入念に行われ、その後エンジンスワップ等の作業が行われる。



⑨ロッキーオート・スタジオと名付けられた新店舗は、屋内に100台収容可能な広大なスペースを確保。グッドコンディションのクルマを、比較しながらじっくりと見ることが出来る。⑩ハコスカも程度抜群な個体を豊富に在庫する。写真の4台は、手前の2台はS20型搭載のオリジナルのGT-Rで、奥の2台はRB型エンジン搭載のスワップ車両。⑪RB25DE型(NA)搭載車両は、スポーツインジェクション化されている。⑫4ドアモデルは、RB26DETT型を搭載するモンスターマシン。いずれも外観はノーマル基調となっていて、オリジナルの雰囲気が損なわれていない。⑬S20型搭載車両も程度は抜群。GT-Rは常に在庫車両があるという。



100台収容可能な新店舗移転完了!! ロッキーオート・スタジオ グランドオープン

旧車業界に新風を吹き込むロッキーオートが、100台収容可能な巨大な新店舗へ移転。
ロッキーオート・スタジオと名付けられた「完全予約制」の新店舗を大公開!!



オリジナルの外観を重視したハコスカやS30Zに、新世代のRB型エンジンを搭載し、イジードライブを可能にする新発想の旧車チューニングを提案。さらには、ポートメッセなごやで旧車とスーパーカーのショー「オートレジェンド」を主催するなど、多彩な活動を行うロッキーオート。愛知県岡崎市に居を構える同店が、このたび、新店舗へ移転を果たした。

同店は、1984年、岡崎市内に開業。その後、同市明大寺の旧店舗に移転。今回の移転はちょうど開業30年、明大寺に移転後20年の節目となる。新店舗は、500坪の敷地に400坪の建屋を構える巨大店舗。なにしろ、屋内に100台の旧車が収容可能で、そのほかに事務所スペースや接客スペースを備え、2階には、VIPルームとパーツストックスペースも用意するというから、破格のスケールだ。

今回の移転にあたり、代表の渡辺喜也さんが、もっとも重要視したのは、「サービスの徹底」だという。一人一人のお客さまに対して、じっくりと時間をかけて対応ができるように、来店は完全予約制とした。さらに、販売用の車両はもちろん、お客さまから預かった車両も屋内で保管できるように、広大なスペースを確保した。

独自の発想でモディファイされたコンプリートカーはもちろん、S20型エンジンを搭載するフルオリジナルのハコスカGT-RやZ432を常に在庫し、どんなお客さまの要望にもスピーディーかつ的確に対応する。それがロッキーオートのスタンスだ。

旧車を知り尽くし、斬新な提案を行うロッキーオートの新たなストーリーがここから始まる!



渡辺喜也さん

ロッキーオート代表の渡辺喜也さん。話のスケールが、一般的な考え方の範疇を超えた大きさであるため、誤解されがちだが、考え方の根本は実にオーソドックスで、純粋だ。

オートレジェンド



ポートメッセなごやで開催しているオートレジェンド。2日間にわたるショーでは、旧車とスーパーカーの展示。そして横浜銀鯨とクールズのステージなどがあり、多くの来場者を楽しませている。これも「お客さまや旧車乗りに、もっと楽しんでほしい」という純粋な気持ちから、行われているものだ。

SHOP INFORMATION



ロッキーオート・スタジオ
TEL 0564-66-5488
〒444-0003 愛知県岡崎市小美町字殿街道 153
http://www.rockyauto.co.jp/

新店舗となるロッキーオート・スタジオは、岡崎インターチェンジからクルマで5分程度。巨大な黒い建物が目印だ。来店は、完全予約制のため、必ず事前に連絡を入れてほしいとのことだ。



「攻め」続ける旧車界の革新派！
攻めの発想、攻めの戦略を続ける旧車業界の革新派。しかしその根底にある発想は、実にオーソドックスなものだ！
RB型エンジン搭載のハコスカやZの製作。さらに大規模イベントのオートレジェンド開催。そしてR32ベースのケンメリ製作など、奇想天外と思えるアイデアを次々に現実化するロッキーオートの渡辺代表。さぞや破天荒な人物と思う方がいるかもしれないが、その発想は至ってまっとうなものだ。その根底にあるのは、「お客さまにとって良いと思うことを形にする」という考え方。たとえば、旧車の雰囲気は好きだが、気軽に快適に乗りたいたいという方に向けて、メンテナンスが楽なエンジンエクシジョンエンジン+パワステ、エアコン装着のスワップ旧車を製作。そ

して、さらにそんなクルマを手に入れやすくし、修理やメンテを行いやすくするため、R32をベースにケンメリを製作。さらにイベントを開催することで、多くのクルマ好きが集う機会や、旧車に親しむ機会を提供する。また、購入時にはもっとゆとり話があったらいいというお客さんに向けて、じっくりと時間が確保できるように来店を完全予約制とし、修理等で大事なクルマを預けても安心してもらえるように、巨大な屋内スペースを確保した新店舗をオープン。普通なら、無理とあきらめることでも実現させるのは、それがお客さまのためだと考えるからだ。



1000坪の敷地を誇るガレージ



新店舗からクルマで15~20分程度の距離にあるガレージ。ここは1000坪の敷地を誇り、中には、貴重なクラシックカーやレアな車両が保管されている。希望があれば、このガレージを訪れることもできるが、こちらも完全予約制のため、足を運ぶ際は事前に連絡を。



見た目はケンメリ、中身はR32スカイライン

さらに完成度up! 平成版ケンメリGT-R 2号機完成!



①エンジンはR32スカイラインの限定車オーテックバージョンが搭載していたRB26DE型を搭載。NAながらファインチューニングが施された名機を、スポーツインジェクション化して搭載する。②基本的なメカニズムはR32なので、部品供給や修理の不安は、大きく軽減される。



③モール類をすべて新たに作り直し、質感にこだわったことで、仕上がりのクオリティーがワンランク上がった印象だ。ちなみにウィンドーはケンメリの純正とまったく同じ形。④インテリアは、R32スカイラインのまま。もちろんパワーステアリング、オートエアコンも標準装備。⑤ドアの内張り作り替えてある。パワーウィンドーも装備する。シートやステアリングなどは、オプションでレカロやナルディなど、スポーツタイプにアップグレードすることも可能だ。



メンテナン스가大変、ステアリングが重い、暑いなど旧車のネガティブな部分をつぶすため、新世代のエンジンにスワップし、エアコンやパワステの装着を図った新感覚の旧車造りを行い話題を独占したロッキーオートが、次世代の快適旧車を提案してきた。それがこのケンメリだ。外観はどこから見てもケンメリだが、実はこのクルマのベースはR32スカイライン。ベースがR32だから、最初からRB型エンジン、エアコン、パワステを装備。その他のメカニズムにしても、高年式となる分、安心して乗ることができる。マカ部分に関しては、万が一の修理時にも部品調達やメンテショップ探しで困ることもないだろう。「ケンメリ」のボディパネルはすべて強化FRPで製作されているが、その精度とフォルムの完成度の高さには驚かされる。いわゆるレプリカ車製作の手法で製作されているわけだが、新たにウィンドーモールやグリルまわりのモールを作り直すなど徹底的に完成度にこだわって製作されているため、こうしたレプリカにありがちな「残念な感じ」はみじんもないのだ。実際に年初のオートサロンでデビューした1号機よりも、この2号機では細部が着目められ、より完成度が上がっている！

Nostalgic Hero

Impressive Classic Car Magazine

ノスタルジックヒーロー

TOP ARTICLE ● 特集

セダンの神髄

The quintessence of the Sedan

トヨペットクラウンデラックス / セドリック1900デラックス / ヒルマンミンクススーパーデラックス / グロリアスーパー6 /
コンテッサ900デラックス / カペラロータリースーパーデラックス / コルトギャランAII-GS

第2特集

日産A型エンジンの血統

B10サニークーペ / B110サニークーペ / B310サニーセダン

Vol. 164

注目記事

怪鳥R381の 復元作業に密着

68年日本グランプリ優勝車のメカを公開

S30Zスポーツワゴン 再現プロジェクト

当時のイメージスケッチが実車へと発展



EVENT

JCCAクラシックカーフェスティバル富士ジャンボリー
ADVANオールフェアレディZミーティング in FSW 2014
第25回トヨタ博物館クラシックカー・フェスティバル ほか

好評連載

全日本保護指定旧車協会 ホンダ1300クーペGT
エンジン屋烈伝 スバル水平対向を極めた者たち
輸入車版懐古的勇士 フィアット・ディーノ・スパイダー
HOT CLASSIX スカイラインHT 2000 GT-R ほか

8

2014 AUGUST

●次号は2014年9月1日発売予定です